

◆ 3月のCP市場動向

3月のCP新規発行額は約3兆2800億円となり、期落ち（約6兆1000億円：当月発行分含む）を大幅に下回る結果となった（除く、相対発行・金融機関発行CP・ABC）。本決算期末を迎え、一般事法の多くの銘柄が有利子負債圧縮目的で発行見送りに動き、昨年3月に記録した過去最低月末残を大幅に下回る13兆6228億円（前年14兆333億円）に止まった。電機メーカー・鉄鋼等、多くの企業が期末発行残高をゼロとした。事業法人が期中にCP発行によって資金調達を積極的に行なう一方、期末には発行を極力抑えるといった動きが鮮明化した結果と言えよう。

発行レートは、発行が激減した影響もあって購入ニーズが強く、ショートターム物では0.10%台後半～0.11%台半ばでの出会い。電機メーカーを除く多くの銘柄で、2月よりも若干低下推移した。新発（3M）物の発行レートは、最上位銘柄（a-1+格）で0.112%～0.126%、一般事業法人（a-1格）で0.113～0.127%、その他金融銘柄（a-1格）では0.113%～0.130%。

【格付け別の発行レート】

3月のCPレートレンジ

(単位 %)

格付	1ヶ月	2ヶ月	3ヶ月
a-1+(一般事法)	0.1080% ～ 0.1200%	— ～ 0.1270%	0.1120% ～ 0.1260%
a-1 (一般事法)	0.1070% ～ 0.1290%	0.1120% ～ 0.1240%	0.1130% ～ 0.1270%
a-1+(リース銘柄)	0.1030% ～ 0.1100%	— ～ —	— ～ —
a-1 (リース銘柄)	0.1100% ～ 0.127%	0.1120% ～ 0.1260%	0.1130% ～ 0.1300%
a-2	0.1120% ～ ケ0.25	0.115% ～ ケ0.30	0.142% ～ ケ0.40

《CPオペ》

CP等買入オペは6日・15日・26日と3回の入札を行い、オファー額は各回3千億円にて実施された。今月のオペ入札では、発行減により応札玉が減少していたにも関わらず、足切り・平均レートは若干高めとなっていた。その理由としては、①電気メーカー等、利が乗りかつ発行の多い銘柄を売却するニーズが強かったこと、②期末償還玉を売切りたいといったニーズがあったことが挙げられる。

3月末の買入オペ残高は、1兆5960億円（前月比291億円減）となった。

## 日銀(資産買入等の基金)によるCP買い入れオペ実績

(単位:億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取 利回り較差	平均落札 利回り較差	按分比率
3月6日	3月9日	3,000	5,803	2,976	0.012%	0.013%	85.9%
3月15日	3月21日	3,000	6,010	2,665	0.012%	0.014%	21.7%
3月26日	3月29日	3,000	4,595	2,988	0.013%	0.014%	83.3%

(注) 下限利回り(年0.1%)からの利回り較差方式

### 《ABC P》

ABC Pは、前月比 6582 億円の大増となり、2 兆 5874 億円であった。前年比でも 1542 億円上回り、10 年 3 月以来の 2 兆 5 千億円超となった。

### 《短期社債残高》

業態別残高推移を見ると、前月比で一般事法が46.15%の大減、その他金融法人で6.40%の減少。一方、ABC Pは34.12%の大増、金融機関で3.17%の増加となった。

3月の新規発行企業はIBJL東芝ファイナンスの1社で、通算の発行企業数は517社。月末時点における発行登録(証券保管振替機構)企業数は、ゼンショーホールディングスと日本ハムが新規登録を行い、497社。

### 【業態別残高内訳】

(単位:億円)

業 態	2月末残高	2月末残高	増減
一般事法	33,463	62,022	▲ 28,559
その他金融	49,108	52,463	▲ 3,355
金融機関	27,783	26,930	853
( 政府系金融	500	580	▲ 80 )
( 銀行等	9,852	10,082	▲ 230 )
( 証券	17,431	16,268	1,163 )
ABC P	25,874	19,292	6,582
計	136,228	160,707	▲ 24,479

(注:買入消却分含む)

### 《CP現先市場》

現先(S/N)レートは3月中も落ち着いて推移し、0.10%近辺~0.105%程度での出会いであった。期越え要因での金利上昇も見られず、インターバンク・レポレート等の影響も殆ど無かった。

#### ◆ 4月のCP市場動向

4月中のCP償還額は約2兆2300億円で、前年同月の償還額（約2兆3700億円）を下回っている（除く、ダイレクトCP・金融機関発行CP・ABCP）。

発行サイドの動きとしては、決算期末対策で有利子負債圧縮を行った鉄鋼・電気メーカー等の復活発行が進み、残高回復の動きが活発化している。しかし、各企業の調達計画もあり、先月中に期落ちとなった3兆円弱がそのまま今月中に発行されることは無く、今月は1.5～2兆円程度の新規増に止まると思われる。

発行レートは、ディーラー・投資家共に玉確保の動きの流れが続いており、堅調な地合いは中々変わらないと思われる。一般事業法人（a-1格）3M物では、0.110台前半～0.120%台半ば、その他金融で0.110%台半ば～0.13%近辺を予想する。

4日に発表された日銀短観の「CP発行環境」調査によると、大企業の**製造業**では厳しいと答えた企業は無く、**非製造業**で3社が厳しいと回答していた。しかし、総じて見ると12月調査と変わらずDIは30となっていて、発行環境は良好な状態が維持されている。

#### 《CPオペ》

今月は、13・23日に2回の入札が実施される予定。現在、復活発行中心に連日発行超となっているが、投資家購入ニーズも強くディーラー保有が中々増えていない状況と思われる。その為、応札ニーズ後退も考えられ、オペレートは先月よりも低下する動きとなるのではないかと。月末オペ残高は、先月末残並の1兆6000億円程度を予想する。

#### 《CP現先市場》

日銀は、期が変わってからも潤沢な資金供給を行なう姿勢を維持している。

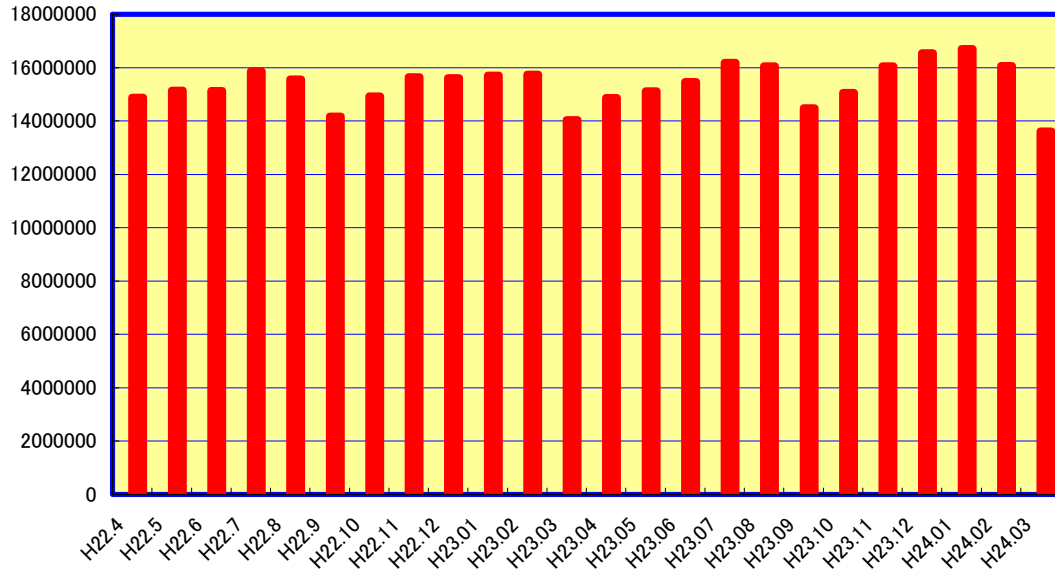
引き続き、インターバンクレートは0.09台前半～0.10%近辺で推移。レポレートも同水準での動きを予想する。CP現先レートは両マーケットレートより若干高めではあるが、0.10%近辺～0.10%台半ばでの出合いで落ち着いた動きとなるだろう。

**参考資料**

**短期社債月末残高** (23年3月～24年2月)

発行登録企業：497社（発行実績あり517社）

(過去2年間の残高を表示)



### 3月末発行残高ベスト20

#### 3月末発行残高上位20社

(単位:百万円)

	発行企業名	3月末残高	2月末残高
1	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	729,110	578,640
2	三菱UFJリース	686,300	692,500
3	三井住友ファイナンス&リース	648,400	642,700
4	東京センチュリーリース	583,000	599,200
5	三菱UFJモルガンスタンレー証券	530,100	513,600
6	みずほフィナンシャルグループ	440,000	440,000
7	エイペックス・ファンディング・コーポレーション	437,660	322,360
8	JXホールディングス	404,000	448,000
9	アルカディア・ファンディング	400,730	335,450
10	シャープ	351,000	414,000
11	みずほ証券	333,300	311,400
12	興銀リース	330,000	338,400
13	フォレスト・コーポレーション	322,342	195,262
14	野村証券	313,000	267,000
15	パナソニック	290,000	240,000
16	JA三井リース	287,000	294,000
17	大和証券キャピタルマーケット	280,880	279,980
18	芙蓉総合リース	273,700	276,200
19	オリックス	220,000	257,100
20	住友信託銀行	189,700	190,700

参考出所 (株)証券保管振替機構

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性について保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長(登金)第243号

大阪本社 〒541-0043 大阪府中央区高麗橋2丁目4番2号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1丁目2番3号

加入協会 日本証券業協会